第三セクター等経営健全化方針

1 作成年月日及び作成担当部署

作成年月日:令和5年3月14日

作成担当部署:山鹿市経済部農業振興課

2 第三セクター等の概要

法人名:株式会社 小栗郷

代表者名:代表取締役 中野 亥津喜

所在地:山鹿市鹿北町岩野 4186 番地の 130

設立年月日:平成12年4月3日

資本金:19,400千円【うち市出資額(出資割合)10,000千円(51.5%)】

業務内容:①物産館、レストランの経営 ②農林産物の生産及び加工販売 ③観光情

報サービスの提供 ④山鹿市の特産品、酒類、煙草、飲料水の販売 ⑤販売会、展示会、催し事の企画運営 ⑥農林産物の通信販売 ⑦民芸品、工芸品、陶芸品、観光土産品の販売 ⑧公園及びその付帯施設の管理運営 ⑨上記各

号に付帯する一切の業務

3 経営状況、財政的なリスクの現状及びこれまでの市の関与

株式会社小栗郷は、道の駅小栗郷、木工体験施設「木遊館」及び小栗郷カントリーパークの管理運営業務を行ってきたが、平成28年度以降に連続して当期純利益がマイナスとなり、令和3年度に当期純利益▲39,413千円の赤字を計上した結果、債務超過法人となった。

市は株式会社小栗郷の設立に 10,000 千円を出資し、設立当初の会社運営にあたっては取締役に市職員が就任していたが、平成 20 年度に策定した「第三セクターの自立経営を図るための措置に関する方針」に基づく人的支援の見直しにより平成 23 年 6 月をもって市職員の取締役の就任を廃止した。また、同方針において、単なる赤字補填を目的とした公的支援は行わないこととしている。

4 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討

1) 事業そのものの意義

株式会社小栗郷の事業は、道の駅小栗郷、木工体験施設「木遊館」及び小栗郷カントリーパークの管理運営である。会社設立当時の地方自治法では、自治体の出資法人等に限定して公の施設の管理委託が可能であったが、その後、法改正により指定管理者制度が開始され、民間事業者による施設の管理運営が可能となったため、第三セクターの存在意義は希薄化している。また、前述の市の方針において、第三セクターの将来的な完全民営化を目標としている。

2) 採算性

株式会社小栗郷が管理運営を行う道の駅小栗郷、木工体験施設「木遊館」及び小栗郷カントリーパークについては事業収入による採算がとれないため、市からの指定管理料を得て施設の管理運営を行っている。

5 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

1) 法人自らによる経営健全化のための具体的な対応

経費削減のため、不採算事業となっているレストラン部門を一時閉鎖し、人件費を削減 するとともに、民間企業のテナント誘致による再開を目指す。

収入増加のため、物産館において農作物や加工品等を販売する農家や事業者が株式会社 小栗郷に支払う委託販売手数料を15%から18%に増加する。

資産状況改善のため、取引関連企業及び生産者からの出資を募り株式の増資を行う。

2) 市による財政的なリスクへの対処のための具体的な対応

第三セクターは独立した法人格を有する経営主体であり、自らの責任において経営を行うべきものであり、市は株主として出資の範囲内で責任を負う。

3) 財政的なリスクを解消させるまでのスケジュール

経費削減及び収入増加の取組により令和 5 年度以降赤字額の縮減を図り、令和 6 年度での黒字化を目指す。

(参考)

6 (株) 小栗郷の財務状況

項目	R1	R2	R3	
資産総額	64,946	53,634	43,546	
(うち現預金)	52,781	30,093	30,858	
(うち売上債権)	934	10,188	978	
(うち棚卸資産)	2,482	1,898	1,474	
負債総額	24,718	25,223	54,548	
(うち市からの借入金)	0	0	0	
純資産額	40,228	28,411	▲ 11,002	

項目	R1	R2	R3
経常収益	110,924	86,650	84,691
経常費用	118,691	98,258	123,941
経常損益	▲ 7,767	▲ 11,608	▲ 39,250
経常外損益	▲ 209	▲ 209	▲ 163
当期純利益	▲ 7,976	▲ 11,817	▲ 39,413